

広島県生涯学習研究実践交流会 挨拶

みなさん、こんにちは。本日は、ようこそ「広島県生涯学習研究実践交流会」においでくださいました。お忙しい中、また週休日の土曜日に、県内はもとより、中四国各県より、そして遠くは東京からご参加いただき、心より感謝申し上げます。

また、平素から、私ども広島県教育委員会が進めています教育施策に対しまして、深いご理解と多大なるご支援をいただいておりますことに、重ねて感謝申し上げます。

さて、私ども広島県立生涯学習センターは、かつて鉄筋コンクリート4階建ての立派な施設を持っていました。しかし、4年前にその建物を出て、事務室一部屋だけを賃借することとなりました。それは、県庁全体を挙げて事務事業を見直す中で、県立施設としての生涯学習センターの在り様を整理したからであります。

その整理とは、県民への直接的な学習機会の提供は基礎的自治体である市町にお願いし、県のセンターは、県内の生涯学習・社会教育を推進・支援する拠点施設として、その役割や機能を「調査研究」「指導者養成」「先導的なモデル事業実施」などの5つに特化したことです。詳しくは、配布資料の中の当センターのリーフレットをご覧ください。

ですから、貸研修室などの提供も、県民カレッジのような学習機会も提供してはいません。行財政改革が厳しく求められる中、県立生涯学習センターの在り様として、全国でも先駆的な整理がされたものと考えています。

このように役割や機能を特化させた私ども広島県立生涯学習センターが、日本生涯教育学会瀬戸内支部と共催して開催しますこの研究実践交流会が持つ意味合いについて、2点に絞ってお話させていただきます。

まず、その1点目は、この交流会が高等教育機関の研究者との研究成果を具現化させるものであるということです。私どもセンターでは、指導者研修でご指導いただいている先生方と一緒に、センターの研修機能を高度化させるための研究を行ってきました。その研究成果を具体的な形としていくための取組の一つとして、この研究実践交流会を企画し、初めて開催いたします。この研究内容については、配布資料にその概要を入れておりますし、この後、清國先生から詳しくお話がありますので、そちらに譲りたいと思います。

そして、2点目は、分科会での発表は、生涯学習・社会教育に携わる行政職員が、個人で調査研究し取りまとめたものであるということです。発表者のうち、10名の市町職員の方々は、今年度、当センターが実施した中核職員を対象とした研修を受講された皆さんです。6月から9月まで、4回にわたって、社会教育施策の計画・立案能力を高めるための研修を受けられました。

普通は、主催者が用意した研修プログラムが終了すれば、研修は終わりですが、研修終了後も、各自が担当している業務に関わる課題解決についての研究活動を、個人演習として継続して行っていただきました。多忙な日常業務の中、OJTとして本日の発表に向けて、主体的に行われた研究を発表していただきます。

私は、常々、職員に対して「県の生涯学習センターの職員として、自分の担当している事柄については、県内で誰よりも一番詳しく、そして指導助言できる存在でなければならない」と言っています。そのために、センター職員は各自で研究テーマを決め、調査研究活動を行っています。その中から、今日は3名の職員も分科会で発表させていただきます。

このように、生涯学習振興・社会教育に携わる行政職員が、自らの資質や技能を向上させるために取り組んだ成果を見ていただきたいと思います。今日の会に向けて、日夜ご努力いただいた発表者の方々に、心よりの敬意と感謝を申し上げます。ありがとうございました。そして、発表、がんばってください。

以上、この会の持つ意味合いについて2点申し上げましたが、本日、ここ広島に、生涯学習・社会教育の関係者が100名以上集まり、研究や実践を交流することによって、広範なネットワークが構築されていくことを期待していますし、その中核・プラットフォームとして、私ども広島県立生涯学習センターは、その役割を今後一層果たしていきたいと考えています。

終わりにになりましたが、一方ならぬお力添えをいただいています清國先生を始めとする日本生涯教育学会の皆様方に厚く感謝申し上げますとともに、本交流会にお集まりくださった皆様方の益々のご活躍とご発展を祈念申し上げます。どうぞ、よろしくお願いいたします。

平成25年2月23日

広島県立生涯学習センター 所長 池田 彰夫